EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER

60064131

PUBLICATION DATE

12-04-85

APPLICATION DATE

19-09-83

APPLICATION NUMBER

: 58171201

APPLICANT:

TOSHIBA CORP;

INVENTOR:

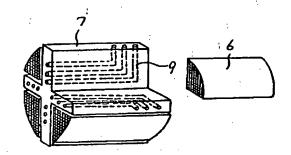
SHIOMI HAJIME;

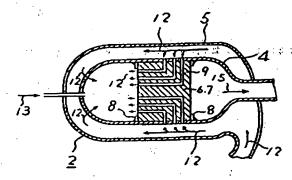
INT.CL.

F23R 3/40 B01J 33/00

TITLE

CATALYTIC BURNER COMBUSTOR





ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent the support material from decreasing of strength by providing ventilating holes for cooling in the support material and by flowing an air discharged from a compressor through the ventilating holes, also improve the preheating effect of the air by utilizing the air heated by the heat exchanging with a burning air.

CONSTITUTION: Cooling holes 9 are provided to be opened at the head part of an inner cylinder in a burner through a support material 7 from the outer periphery surface of the inner cylinder 4. The gas temperature at the inlet part of a catalyst layer 6 is approximate 500°C under a reaction appropriate temperature conditions required for the catalyst, and the gas temperature at the outlet part is appropriate 1,200°C at present condition under the turbine inlet temperature conditions, also the temperature of the catalyst layer support material 7 is kept neary same temperature. Therefore, the support material is sufficiently cooled and does not decreased the strength thereof caused by flowing the discharged air having approximate 350°C in temperature through the cooling holes 9 inside of the support material 7 from a gas turbine compressor. The preheating effect for the air is improved by utilizing the high temperature air after heat exchanging with the support material 7 as the burning air at the heat part of the burner, also the load of a preheating device for securing the appropriate gas temperature conditions at the inlet part of the catalyst layer 6 can be reduced.

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

inis Page Blank (uspto)

__ST AVAILABLE COPY

⑩ 日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭60-64131

@Int_CI_4

j'i

識別記号

庁内黎理番号

母公開 昭和60年(1985)4月12日

F 23 R B 01 J

7137-3G 7624-4G

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

❷発明の名称 触媒燃焼器

> 顧 昭58-171201 ②特

22出 願 昭58(1983)9月19日

砂発 明者 見 東京都千代田区内幸町1のの1の6 東京芝浦電気株式会

社東京事務所内

⑪出 願 人 株式会社東芝

川崎市幸区堀川町72番地

弁理士 則近 外1名

内筒シよびとの内筒内に配数された触媒 **増とこの放媒角を支持するサポート材とよりなる** 放鉄燃烧貨において、助配内筒の外周間に関ロし 前記サポート材を真通して内筒頭部と連通する冷 却孔を設けたことを特徴とする触珠燃焼器。

3. 発明の詳細を脱明

(発明の技術分野)

との発明はガスターピンに於て燃料と空気の説 合気を放媒帯に送入し、触媒の酸化促進作用によ り触媒の表面で炎を出さずに燃焼させる触媒然鏡 旨の改良に関する。

【発明の技術的背景とその問題点】

その空気と怒料を混合して思想

ガスターピンは圧縮後、燃焼器及びターピンか

とのガスタービンに於て従来の燃焼遊は圧縮機 吐出の圧縮空気と燃料を混合し、炎を生じて燃焼 させ燃料のほ化反応を起こさせている。との方丈 の場合、炎を出して燃飽させるので燃烧領域では 局所的に 1800°C 以上の高温となりサーマル NOx が生成し易い。又燃料と空気の比率がでく殴られ た狭い絶闘でしか使用できず、さらに燃焼温度が 低くなると燃焼を持続させることがむずかしくな り、00 や炭化水素の未燃分の生成も多い。との ようを欠点を克服するため、放政の政化促送作用 により放媒の殺菌で表を出さずに悠绕反応を超と させる放集都免費が消えられている。との方式の 燃焼は触媒の最適で燃料の献化反応として 進行し、炎ď焼のようを周所的高温域がなく一様 な温度分布となり、かつ必然終よりも若しく低温 Kタいて完全悠饒が可能であるため、ナーマル

の生成も少ない。 また燃料刀ス級底が数 100 ppm

BEST AVAILABLE COPY

特別昭60-64131 (2)

定した松餅を行なわせることができる。

第1回は触媒络鶏苺を備えたガスタービン装置 を示すもので、大気より長込まれた空気11はガス メービン圧縮機1Kより昇圧されて圧縮低吐出空 気12となり放鉄燃烧器2K入る。そして燃焼器内 IC て悠科13と混合した後効群燃焼し、発生した燃 姥ガス15はメービン3に入り仕事を行う。仕事を 磁えた燃焼ガスはターピン排気ガス16として釆外

第2回は触誤燃焼器2の前面を示したものであ り、第3図は触鉄燃焼器2の中の触媒層及びその サポート材を示す例視図である。 圧縮 母吐出空気 12は燃焼器の後部より入り、内筒 4 と外筒 5 の間 を通り燃焼器の顕彫れて内貌4の中に入る。とと で燃料13と混合し適当な子煎を受け(予煎の為の 装製は図示せず)触維層6の中に入る。四中4個 の触媒暦プロックはサポート材 7 により固定され 一体となつてかり、これは固定共 8 により燃焼器 内頼4に固定されている。 放鉄層 6 はハニカム律 造や多孔構造となつており、カスの地路部の表面

には燃焼放成が付湯されている。放薬層6を送過 する際に松村と空気の協合カスは炭鉄路路して松 捺ガス15となりメーピン 3 K向う。

とのようを触媒燃烧器にかいて、燃烧器山口の 対銃ガス温度はメービン側の条件により現在1200 "O 前後にする必要があるので、歴媒膜の出口部. では触媒層を固定、支持するサポート材は何様の 盆底となる。高盆にさらされるサポート材の材料 として8i0, 8i,N.等のファインセラミフクスヤ ニッケル系耐熱合金が考えられるが、耐熱耐解食 盤度は上記ファインセラミックスが 1000°O 前後、 耐熱合金は 900°O 前後であるため、 1200°O 前後 の益度条件の下で使用するには強能上问題がある。 (条明の目的)

本発明は以上の点にかんがみなされたもので、 放供層サポート材の温度を下げ、十分な支持強度 をもつ放鉄燃焼器を提供するととを目的とする。 【発明の概要】.

上記目的を達成するため本発明は、内質の外角 箇に関ロしサポート材を貫通して内給 顕都と連通

する冷却孔を設けたことを停敷とするものである。

以下本苑明の一尖旌例につき第4回および第5 図を参照して説明する。第4図に示すように本発 明は内蔵4の外周箇からサポート材?を通り燃焼 造内筒頭線に閉口する角却孔9を設けたものであ る。 放薬浴 6 の入口部におけるガス器 原は触媒の もつ反応適正温度条件により 600°C 前後、出口即 ではタービン入口温度の条件により現状 1200°C 前後であり、放送浦サポート材でも略々同様の温 仮とする。従つて 350°O 前後のガスターピン圧線 後の吐出空気を冷却孔9によりサポート材1の内 郎に流すことだよりサポート材?は充分に冷却さ れ進変低下を生ずるととはない。またサポート材 7と治交換して副匠上昇した空気を燃焼胃頭部に て燃焼用空気として用いることにより空気の予熱 効果が高まり、触薬脂6の入口部におけるガスの

の予点装置の資料を小さくすることができる。

ート材で支持するものであるが、放業層の数やよ び形状はとれて限定するものではない。例えば第 6 図に示すように12個の触媒所を格子状のサポー トで支持するもの、第7㎏に示すように6個の放 鉄層を放射状ナポートで支持するもの、前8四分 よび鮮9図に示すように1個の触媒所を両端の2 留の十字形ナポートで支持するものであつてもよ い。また帝却孔の数、形状、配置、通路部形状も 本央施例に限定するものではない。第10回に示す ように冷却孔がサポート材の中で分岐するもので あつてもよい。さらに冷却孔はサポート材だけに 明いているものでなくてもよく、あり似化示すよ うに触媒層自体に倍却孔が明いていて、圧筋接吐 出空気がサポート材から放業層内を通つて燃焼器 **顕都へ能入するものであつてもよい。**

〔発明の効果〕

上述の句く本発明によれば、ナポート材にな母 为正面ExpeniedLitem 10787403 8月19199199199950吐出望只在这个15 Kしたのでサポート材は光分に冷却され強度低下

IST AVAILABLE COPY

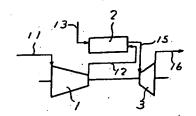
持聞昭60- 64131 (3)

た空気を燃焼用空気として用いることにより空気 の予熱効果が高まるといり判点も付われる。

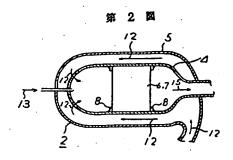
4. 図面の簡単な説明

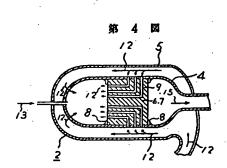
第1 図は放供物にはを個人たガスタービンを示す。 す。成別、 11 2 図は従来の放棄物類を示す。 例、 13 図は放棄がシェッセート材を示す。 が、 13 図は放棄がシェッセート材を示す。 が、 15 図は無4 図の放展がシェッサポート材を示す。 が、 15 図は無4 図の放展がシェッサポート材を示す。 が、 17 図シェックを示す。 が、 18 図はされぞれ。 異なる他の実施例を示す正面図、 18 図はは解8 図の人一人般矢視断面図、 18 10 図は本発明の異なる。 他の実施例を示すが、 18 10 図は本発明の異なる。

第 1 図

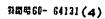


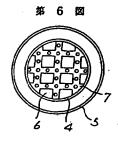
代題人 弁理士 期 近 遊 伯(はか)名)

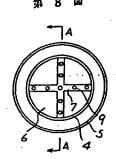


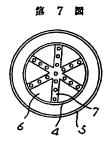


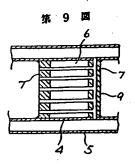
Topied from 10787403 of 19726/3006











悠 10 段

